

ひとりSDGs

高度成長期から日本を支えてくるも、今や産業廃棄物のごとき団塊世代の一員として、「無駄に元気」なことが環境負荷になってないか？

そんなネガティブな思いを募らせる今回のテーマ「SDGs」。

酷だなあ、と嘆きつつも、ご下問あらば真面目に答えようとするしがないサラリーマン根性と条件反射は健在なので、よく理解しないままでの的外れながら、気づくことを綴ってみたい。

若い時、「このまま地球の人口爆発が続くことはないよ。そのうちに核戦争・疫病・資源枯渇で人口は激減するから・・・人間ってそんなものさ」と先達から警鐘を鳴らされた。そのリスクが世界規模で顕在化する中での「SDGs」採択は必然であり、確実に実行しなければ、終末時計がタイムオーバーとなる。

しかし各国の立場や思惑・権力者のエゴが不協和音となるのは必定。これを乗り越え「SDGs」を実現するには、SDGsがエンジンとして回る経済の仕組みやビジネスモデルを追求しグローバルな共通文化としていくことが必須ではないか。ただ、このスコープで老兵の私にできることはなく、誰も期待はしない。

私にできること、それは年齢問わず各々が自分の思いを持って自主的になす「ひとりSDGs」だ。急に話が卑近で矮小になって恐縮だが、この視点で「これって『ひとりSDGs』ちゃうん？」とのこじつけを次に整理してみたい。

1. 遠出の外出に車は使わず

昨年、紀の川の水道橋が崩落して以来、河を渡るカーラッシュが激しくなり、一人だけの通勤者を運ぶために1.5トンの鉄の塊がひしめいている。

私は、一人の遠出に原チャリを愛用。排気ガス散らす車列を尻目にスイスイ。とはいえ、それ以前に不要不急の外出はするな！と外野の声。

2. 家族の食事作りに食材・食品ロスは出さず

主夫である私の料理の腕に家族の夕食はかかっている。勿論メニューは残材活用を基本にし、食材ロスは出さないよう気を配る。食べ残しや賞味期限切れは自己責任で私が消費。おかげで血圧・血糖値は上がり気味。

3. 寒い室内は重ね着でしのぐ

日中部屋に一人でいるとき、暖房器具はスイッチOFF。しっかり重ね着して防寒。室温2℃あげれば健康寿命は4歳延びると知りつつ痩せ我慢である。年金だけの生活困窮者はかくあるべきか。

4. 子供や障害者・高齢者をサポートする

定年後からボランティアで子供たちやデイサービス利用者への紙芝居・絵本の読み語り、それに目の不自由な方へ県広報誌や新聞コラムの朗読配信をさせてもらっている。誰一人取り残さないSDGsへの寄与と位置づけよう。これには、元気な子供たちのエネルギーをチョロまかす余得もあり。

さて、SDGsへの不満をひとつ。昔からPDMやERPにSCM、今はIoTにDXと英字略称に振り回されてきたが、またまたSDGsかよ。もっと親しみ湧く日本語コピーはないの？ 日本語力貧弱な外務省の怠慢である。松田聖子の「瑠璃色の地球」から次の歌詞を進呈するのでヒントにしてほしいなあ。

ガラスの海の向こうには 広がりゆく銀河
地球という名の船の 誰もが旅人
ひとつしかない 私たちの星を守りたい

<不要不急の外出を楽しみお筆者近影>

